

塾生のみなさんへ

当校の卒業生（第5期生） Y.Kさんが、外交官になりました。

このたび外交官（国家公務員）試験に一発合格したKさんから、
塾生のみなさんに向けて学習アドバイスをいただきました。
みなさんもぜひ参考にしてください。

自己紹介 & 英語との出会い

私は1998年から2002年まで駿光アカデミーで英語を教わっていました。入塾する前の自分は、『日本人なのになぜ英語を勉強しなきゃいけないんだ』と真面目に思っていましたし、英語には一切興味がありませんでした。そんなわけで中学校のテストはいつも50点前後で、得意な科目とは程遠いものでした。

駿光に入塾して、英語を基礎からみっちり教えてくれたことは勿論ですが、塾長が授業の合間に、学生時代、バックパッカーとして海外を旅行したときの話をしてくれました。英語に全く興味のなかった僕が、塾長が聞かせてくれた海外での旅話から初めて日本以外の文化に興味をもち、『英語を勉強していつか自分も旅にでたい！世界中の色々なものを自分の目で見てみたい！』と思い、英語を勉強するようになりました。

その後、大学生になりバックパッカーとして海外旅行を繰り返し、民間の会社へ就職し、紆余曲折を経て、この春からは絶えず英語を使う職業である外交官に就くことになりました。

以下では自分自身の勉強方法とこの試験を受験するに至った経緯をお話したいと思います。

勉強方法

会社を辞めてから、外交官試験に打ち込みましたが、その中でも自分でこれは良い勉強方法だったなというものをいくつか紹介したいと思います。

① 合格体験記を読むこと

やはり成功者のやり方をまねるのが一番の近道だと思います。その合格体験記をもとにいろいろな勉強法を実践し、自分に合う勉強方法を試行錯誤しながら見つけていくのが良いのではないのでしょうか。

加えて、僕の場合は毎晩、寝る前に合格体験記を読み、絶えず自分が合格したときのことを頭の中に刷り込ませていました。

② 時間を細かく区切り、集中力を保ちながら勉強すること

当たり前のことですが人間の集中力は無限には続きません。僕の場合は長くて60分で、それを過ぎると頭の中で他のことを考えてしまいます。ですから勉強時間を60分と区切って、集中して取り組みました。慣れないうちは30、40分で区切っても良いと思います。大切なことは集中して勉強することです。試験前だけ試験時間の2時間に合わせていましたが、普段の勉強では60分を一区切りとし、その後は必ず10~15分の休憩をとりました。

③ ストップウォッチで勉強時間および休憩時間を図ること

上記のように勉強時間60分、休憩時間15分を必ずストップウォッチで計っていました。人間の意志は弱いもので（僕なんかほんとにそうですが）、しっかりと時間を計っていないと15分と決めた休憩時間が30分になったり、1時間になったりしてしまいます。ですからストップウォッチで時間を管理し、自分の甘い部分を拘束していました。

④ 続けて同じ科目を勉強しない

60分(以下、1セット)やって休憩を挟んで、次の1セットは前の1セットとは違う科目を勉強するようにしていました。例えば英語を60分やって、次の60分は国語をやり、その次の60分は社会をやるといった方法です。同じ科目を続けて勉強すると脳の働きが落ちますし、科目をいろいろ変えながら勉強することで脳に刺激を与え、頭の回転も良くなります。

⑤ その時間(60分)帯のうち、その日のうちに復習をすること

勉強の極意は復習をいかに行ったかに尽きます。僕は60分のうち最後の5分はその時間で勉強したことを簡単に復習していました。さらに記憶が定着する就寝前に、その日に行った勉強を復習しました。ここでいう『復習』とはその時間帯、その日の行っ

た勉強をしっかりとやるのではなく、該当箇所をパラパラとページをめくるだけでもかまいません。それだけで脳の整理や記憶の定着には格段の違いが生まれます。これをやるとやらないとでは勉強の成果に雲泥の差が表れると思います。

⑥ 蛍光ペンや色つきのボールペンで視覚効果を与え、 記憶の定着に役立てること

僕は勉強中に3色の蛍光ペンと青色のボールペンを使っていました。視覚効果で脳に刺激を与え、いかに自分の頭に記憶を残すかを考えた上での方法です。

⑦ 基本を徹底的にやる

スポーツでもそうですが、勉強も基本が超重要です。基本テキストは10回でも20回でもやってください。勉強が進むと応用・発展した内容をやりたくなりますが基本が全てであり、基本がしっかりしてから行ったほうが良いです。また基本は理解していると思っても、何回でも時間を見つけて絶えず復習を行ってください。試験が近ければ近いほど基本テキストの復習が大事になります。

⑧ 一つの参考書を何回もやること

最近ではいろいろな参考書が書店に並び、どれも魅力的に見えますし、また人の噂を聞いていろいろな参考書に手をつけたくくなります。ただ勉強の成功への近道は良い参考書を繰り返し何回も勉強することです。参考書選びはその道のプロである塾長に任せるか、自分でこれだと思えるものを1冊手に取り、後は徹底的に繰り返して行くにつきます。良質の参考書は「するめイカ」のように、噛めば噛むほど、読めば読むほど、解けば解くほど、理解が深まり実力がつきます。

⑨ 前日に翌日の計画をたてること

計画をたてることはとても重要です。前日に翌日の計画を立てることで、当日「何を勉強しようか」悩むという時間の無駄使いを防ぐことができ、効率良く時間を使えます。

また日曜日の夜に、月曜日から1週間のうちにやることを大まかに決めておきます。『plan・do・check』という言葉がありますが、計画し、それを実行し、さらに振り返るといった過程は自分の目標を達成するための一番の近道となります。

⑩ 絶えず前向きに前向きに取り組む

勉強をやっていると「今日は集中できなかったな」とか「寝坊しちゃった」などなど自分の計画通り進まないことは多々あります。計画なんてその通りに進まないことがほとんどです（でも計画を立てることは超重要）。それでも、寝坊しても「あつ、今日は体が休息を欲していたんだな」とか、集中できなくても「次の時間帯集中すればいいこと」と絶えず前向きに考えて行ってください。小さなことでくよくよしないことが大事です。

いかに頭の切替えをうまくできるかが勉強の極意です。

⑪ 弱点をなくすこと

試験勉強では弱点をなくすことが大切です。

例えば英語で90点取れても、国語で30点しか取れないようではダメで、それなら両方60点取れたほうが良いのです。何故かという、その年の英語がやさしく皆が80点以上取れるようでは他人と大して差がつかず、国語が大幅に足を引張ってしまい、試験は残念な結果に終わるかもしれません。

また英語を80点から90点に引き上げる労力は、国語を30点から60点に引き上げる労力に匹敵するでしょう（その理由は塾長に聞いてください（笑））。そしたら同じ労力で10点よりも30点引き上げる勉強をした方が、試験勉強には効率的です。

⑫ 隙間時間を有効に使うこと

ここでいう隙間時間とは、例えば電車に乗っているときや風呂の湯船の中など、ちょっとした時間です。チリも積もれば山となるではないですが、そういった少しの時間も1年あれば膨大な勉強時間となります。隙間時間をうまく使って勉強量を増やしてみてください。机に座っているときだけが勉強ではありません。

⑬ 休みをとること

毎日毎日勉強では精神的にやる気がおきません(僕の場合は)。ですから1週間に1日は全く、1分たりとも勉強しない日を作り、めいっぱい遊んだりして脳を休ませることも必要です。僕は1週間に1日は必ず休みを取り、大好きなフットサルを思う存分やっていました。

以上 13 個の勉強方法を紹介しました。みなさんはこれを全てマネするのではなく、自分にとって使えそうだなと思ったものを実践してみてください。

最後にこの試験を受けようと思ったきっかけを少し話したいと思います。

高校生のころ英語に興味を持って勉強を始めたころから、いつかは英語を使った仕事をしてみたいと思うようになりました。その当時、塾長も外務省を受験したことを聞いていたので、外務省かもしくは国際連合で働けたらなあと漠然と考えていました。

しかし、大学受験では自分の行きたかった第一志望の大学に受からず、くよくよ悩んでいる時期がありました。実際、大学に入ってから「この先の人生、自分はどうしたいのか」とよく悩んでいました。またやりたいことがあっても理想と現実がかけ離れていると思い、いつも悩みを抱えていたことを覚えています。

ただ大学時代はアルバイトをしてお金を貯め、よく旅行を繰り返していました。

そしてその旅先で見たもの、アメリカのスラム街やカンボジアの地雷被害者が住む村、地雷のマーク、トルコで犯罪の被害にあった体験等々、数えたらきりがありませんがそのような沢山の経験から、世界中には、自分の身のまわりでは考えられない問題が沢山あると感じました。

また海外に出ることで、日本の文化について聞かれたことや日本人としてみられることから、自分が「日本人」であることを強く意識するようになりました。そして日本についてもっと知りたいと思い、司馬遼太郎の歴史小説を読んで日本の歴史を知り、広島に行って被爆者の方と話をした経験から、いつか日本に貢献でき国際問題にも携われる仕事につきたいと思うようになりました。

そんな中で、日本の国益を意識しながら国際社会の発展にも貢献できる外交官という仕事があることを知りました。

しかし大学生のころは、外交官試験の合格者の出身大学をみると、とてもじゃないが太刀打ちできないと思い、受験を諦めてしまいました。

その後、民間の会社に就職し生活をしていました。就職してからも心の底には「外交官」という職業についてみたいという気持ちがあり、絶えず葛藤していました。そして「このまま自分のやりたい仕事に挑戦もせず、人生を終わらせていいのか」と自問自答を繰り返していました。

そのような日々の中でも、僕の中には人生に対するある価値観がありました。それは僕の大好きな俳優ウィル・スミス主演の映画『A L I』の主人公の「オレは他人が望むような人間にはならない。自分を信じることを恐れない」という台詞にあるように、『他人に敷かれたレールを歩むのではなく自分の人生は自分で決める。自分のやりたいことに挑戦すること』、これが僕の価値観でした。

したがってその価値観に基づき、自分を信じて受験を決意し、その後会社も退職しました。

皆さんにお伝えしたいことは、自分の価値観を把握し、自分の望む人生を歩めるように努力することが大切だということです。価値観は十人十色で人それぞれ違いますが、自分の価値観を大切に、人生を歩んでください。また何かに挑戦するときは自分の可能性を決め付けずに自分を信じて挑戦してみてください。